

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700205		
法人名	医療法人 青鳳会		
事業所名	グループホームみま		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町上下島499番地21		
自己評価作成日	平成24年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、同一法人の医療機関と併設であり、緊急時における迅速な対応が可能な体制を構築している。併設事業所の行事等に参加している。利用者と職員は、梅干しや干し柿などの季節に応じた食材をともに作っている。また、学習療法の導入に向けた計画化を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、明るい笑顔で利用者に寄りそい、利用者一人ひとりの視点に立ったサービスの提供に努めている。運営推進会議では、活動報告や情報交換、研修等も取り入れた双方向的な会議となっており、話しあった内容を運営面に反映している。地域住民との交流に積極的に取り組んでおり、来訪者も多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念を唱和し共有し実践できるよう心掛けている。	事業所独自の理念を作成している。毎朝、申し送り時に理念を唱和し、職員間で共有している。梅干し作りや手打ちうどん作りなどを通して、理念の“家庭的な雰囲気の中で生きる喜びを感じて頂ける生活を支援していく”の実現に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	第2・第4日曜日にカラオケ好きな利用者地域の方が集まりカラオケをし交流している。	新年会や忘年会、夏祭りなどの行事に地域住民の参加がある。お手伝いも含め、行事を盛り上げてくれている。また、第2・4日曜日には、カラオケをとおして交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での認知症の勉強会や普段の交流を通じて認知症の理解等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービス実施・行事の報告・利用者の状況等を報告している。また、推進会議メンバーからの意見を頂き、サービス向上に努めている。	運営推進会議では、事業所の活動報告や連絡を行っている。法人後見や虐待予防に関する研修も積極的に取り入れている。また、相互に情報交換を行いつつ、双方向的な会議となるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営地域推進会議等を通じて協力関係を築けるようにしている。また、ケアプラン等の研修会もあり参加している。	グループホーム連絡協議会等を通じて協力関係を構築し、事業所の実情や取り組みを積極的に伝達している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面している為、玄関の施錠を行っている。利用者が外気浴や水やりをする時には開錠し見守っている。身体拘束の理解については勉強会や研修に参加し理解を深めていく。	事業所は、勉強会や研修を行うことで、職員の身体拘束に関する理解を深めたり、予防意識の高揚を図ったりして、日ごろのケアに繋げている。玄関の施錠についても時間帯を決めて開放し、利用者の自由な生活の支援に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会等を行い学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、社会福祉士の方に来て頂き、成年後見制度について勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面にて詳しく説明している。また、契約時不安や疑問点がないか伺っている。契約後も不明な点があれば随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望、不満等はないか尋ねている。要望等あれば可能な限り前向きに改善している。	管理者や職員は、家族の面会時に気軽に意見等を伝えられるような機会をつくり、意見や要望に対し柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に現場の職員より運営に関する意見や問題点を聞いており、可能な限り反映させている。	職員から出された意見や提案を、行事や日ごろのケアに反映させている。公文学習や脳トレーニングなども取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課においてそれぞれを評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会等には積極的に参加してもらうようにしており、希望があれば許可するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会を通じ交流、また、実践者研修で相互訪問の活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状態を家族、ソーシャルワーカーから情報を聞きある程度状態を把握している。本人にも安心して頂けるようゆっくりと傾聴したり、見守り少しでも不安が和らげるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の方に事業所に来て頂き、ホームの案内や説明等し、家族にどのような生活をして欲しいか等の要望や不安等のを聞き取りをし良き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に要望等の聞き、確認しながら必要であるサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備はできていないが、おやつ作りや洗濯物たたみ・水やり等できることを積極的に声掛けしコミュニケーションを図りながら一緒に行い、よい関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや敬老会等の行事に参加して頂き、家族との交流を図り、共に本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由にして頂いている。また、外出希望があれば、できるだけ希望に沿うようにしている。自由に友人や知人への手紙や電話を掛けて頂いている。また、取次ぎも行っている。	週一回は一時帰宅をする利用者もいる。家族や近隣の知人の来訪も多く、利用者一人ひとりのこれまでの関係が途切れることのないよう支援している。また、来訪者や面会者の記録簿を作成し、馴染みの関係の把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にいる方には訪室しゆっくりと話をしたり、ホールで過ごされている時には、他の方とも会話等ができるように仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	1F		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたりし退居しても、顔を見に行ったり、声掛けをしたりしている。また、必要に応じて本人・家族の相談にも応じている。				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方や思いを聞き、把握に努め前向きに検討し可能な限り実施している。また、困難な場合には、家族に聞き取りを行ったりしている。	日ごろのかかわりの中で利用者一人ひとりの意向や希望の把握に努めている。思いの把握が困難な場合は、利用者本人の生活歴を振り返るなどして対応している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りを行ったり、生活されていた施設のサマリー等を見たりして、生活歴等の把握に努めている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、できる事、できない事を見極め、現状の把握に努めている。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を第一にアセスメントやカンファレンスを行い、可能な限り実現に向けたケアプランの作成に努めている。	利用者本人や家族と向きあって思いや意見を把握し、反映させるようにしている。全職員でカンファレンスを行い、利用者が自分らしく暮らすことができるよう介護計画書の作成に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活の様子や変化、気づきを記入し介護計画に活かしている。また、申し送りノートがあり情報共有している。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を聞き、できるだけ要望に沿えるよう柔軟な支援を心掛けている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得て、行事を行ったり、消防に避難訓練の指導をして頂いている。また、近所の美容院を利用し散髪を行っている。個人でお金の管理ができる方が郵便局へ自己にて電話し預金の管理をされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を受けている。急変時や体調不良時にはその都度外来受診している。また本人及び家族が希望される医療機関に受診できるようにしている。皮膚科・歯科は希望時に往診して頂いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期的な往診や利用者の希望に応じた皮膚科・歯科等の他科の受診にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日訪問看護と連携を図り、個々の健康状態や異常等を報告や相談し、適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時においてその人の状態を詳細に説明し病気以外の事等も話、情報交換、共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面において確認し家族と話し合い、方針を共有している。また、必要な時に家族と話し合いを行っている。	入居時の段階で、重度化した場合のあり方について説明している。書面を交えて家族と話し合いを行っている。重要事項説明書に看取りに関する事項を記載しているが、重度化した場合の対応方法や体制について職員間で十分に共有するまでには至っていない。	重度化や終末期の利用者を支えるため、事業所にできることとできないことを見極め、事業所の方針として共有化されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時の連絡等のマニュアルはある。定期的には訓練は出来ていない。積極的に勉強会や講習会に参加し習得できるように努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と連携し、避難訓練を行っている。また、災害に備えて食料や飲料水の備蓄を行っている。	年2回、避難訓練を実施している。事業所の立地場所の土地が低いことなどから、津波や洪水に備え地域の方の土地を借りて対策を講じている。	

自己	外部	項目	1F		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り、トイレ誘導等の声掛けや個人情報のお話等、気を付けている。居室の名札や行事の写真、ホール便りの写真の掲載についても書面で了解をいただいている。	利用者の視点に立ち、居室の出入りやトイレ誘導時など、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。また、名札や写真等、個人情報の取り扱いについても、書面で本人や家族の了解を得るなど留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者については、希望や自己決定ができていない。自己決定等ができない方には個々にゆっくりと声掛け等を行い、促したり、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一部職員の都合を優先しているものもある。できるだけその人のペース、希望に合わせた柔軟な支援ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣、入浴後、外出時等、好みの服装やその人らしい身だしなみやできるように		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けは現在できていないが、味見やおやつ作り等はして頂いている。梅干し作りや干し柿作り等昔にやっておられたことは積極的に行っている。また、希望があれば外食等にも出掛けている。	母体法人の事業所で調理した食事を運び込んでいるが、盛りつけは事業所で行っている。利用者には、味見やおやつ作りなど一部を担ってもらっている。家庭菜園で採れたトマトやナス、オクラ等を一品として添え、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分量のチェックを行っている。足りない場合は好きな物、食べたい物を準備し食べて頂いたり、医師に相談し経腸栄養剤(ラコール)を飲んで頂いたりし補っている。食事時間は決まっているがその人に合わせて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛けや一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレやポータブルトイレで排泄できるように声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間も巡回時に声掛けし介助を行っている。	排泄チェックシートを活用し、利用者の排泄パターンを把握している。さりげない声掛けや誘導を行って、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っている。なるべく牛乳等の乳製品を摂ってもらったり、運動をし便秘の予防をしている。それでも出ない場合は医師に相談し個々に応じた薬(整腸剤・緩下剤・浣腸)を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望等に合わせ入浴できるようにしている。入浴拒否される方には、花を見てもらい気分転換し再度声掛けしたり、時間をずらしタイミングを見ながら声掛けし気持ちよく入浴できるように支援している。	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っている。夜間の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせていつでも休息が取れるように配慮している。また、希望を聞き快適に過ごせることができるように温度調節や換気等を行っている。体調不良時には再々巡回し声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を個別のファイルに整理し、作用や副作用を把握できるようにしている。誤薬や飲み忘れ、時間を間違えないように薬包に日付や色分けをし個別に管理し、服用前にも名前をしっかりと確認し服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作りや洗濯物たたみ等できることを声掛けし一緒におこなっている。菜作りが好きな方には野菜が作れるように小さな家庭菜園を作っている。昔からやって来られた梅干し作り等が得意な方には継続してできるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、ホーム周辺の散歩や近所のドラッグストアやコンビニに買物に出掛けている。一人ひとりが行きたい場所へ出掛けられるように希望を聞き出掛けている。自宅の様子を見に帰りたい方は希望があればできるだけ時間を作り付き添い帰っている。	本人の希望を把握し、散歩や買い物等、行きたいところへ出かけることができるよう支援している。花見等、季節に応じた外出支援にも積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品等を購入する為、家族よりお金を預かり管理している。また、何にいくら使ったか家族に報告しサインを頂いている。自己にて管理できる方は本人が管理し、買物や外食に行った時に自己にて支払できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己にて電話掛けられる方については、希望時自由に電話を使って頂いている。また、希望等があればその都度、取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りに季節の花等を植えたりしている。また、廊下や食堂の壁面に季節感を感じて頂けるように掲示物を工夫している。行事や外出時の写真も掲示し、いつでも見れるようにしている。	玄関等に季節の花や鉢物を飾っている。廊下の長椅子には手作りのアップリケやパッチワークをあしらったカバーをかけるなど、家庭的で季節感のある共用空間となっている。利用者が、思い思いの場所で居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや玄関に椅子を設置し気軽に座り話等できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望に合わせてベッド、床頭台を配置している。馴染みの物や好みの物を持って来て頂けるよう本人、家族に声掛けをしている。	利用者の希望に応じてベッド等を配置している。利用者の使い慣れた物品や写真等を置き、一人ひとりが居心地良く過ごすことのできる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分らない利用者には目印になるような物を掲示したり、設置したりしている。移動の障害になる物等をなるべく除去し、バリアフリーに努め転倒防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を読み上げて共有している。	理念に沿った支援ができるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	外出時(近所への買物や散歩等)道でお会いした方に、挨拶している。また、第2週・第4週の日曜日にカラオケ好きな利用者地域の方が集まりカラオケをしている。	利用者と散歩や買物に行った際、挨拶をしている。第2週・第4週の日曜日にカラオケ好きな利用者地域の方が集まりカラオケをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の勉強会等を行っている。	勉強会等に参加し認知症の理解が得られるように努力している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービス実施・行事の報告・利用者の状況等を報告している。また、推進会議メンバーからの意見を頂き、サービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、サービス実施・行事の報告・利用者の状況等を報告している。また、推進会議メンバーからの意見を頂き、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営地域推進会議等を通じて協力関係を築けるようにしている。また、ケアプラン等の研修会もあり参加している。	吉野川市グループホーム連絡協議会や運営地域推進会議等を通じて協力関係を築けるようにしている。また、ケアプラン等の研修会もあり参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面している為、玄関の施錠をしている。利用者が日光浴や植木に水やりをする時には開錠し見守っている。身体拘束の理解については勉強会や研修に参加し理解を深めていく。	玄関の施錠は行っているが、その他についてはその都度話し合っている。身体拘束の理解については勉強会や研修に参加し理解を深めていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会等を行い学んでいる。	虐待防止については勉強会等を行い学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、社会福祉士の方に来て頂き、成年後見制度について勉強会を行った。	昨年、社会福祉士の方に来て頂き、成年後見制度について勉強会を行った。 現在1名社会福祉協議会を利用し、通帳の管理、現金の出し入れを行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面にて詳しく説明している。また、契約時不安や疑問点がないか伺っている。契約後も不明な点があれば随時説明している。	入居時に書面にて詳しく説明している。また、契約時不安や疑問点がないか伺っている。契約後も不明な点があれば随時説明している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望、不満等はないか尋ねている。要望等あれば可能な限り前向きに改善している。	面会時に意見や要望、不満等はないか尋ねている。要望等あれば可能な限り前向きに改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に現場の職員より運営に関する意見や問題点を聞いており、可能な限り反映させている。	定期的に現場の職員より運営に関する意見や問題点を聞いており、可能な限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課においてそれぞれを評価している。	人事考課においてそれぞれを評価している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会等には積極的に参加してもらうようにしており、希望があれば許可するようにしている。	認知症に関する研修会等には積極的に参加してもらうようにしており、希望があれば許可するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会を通じ交流、また、実践者研修で相互訪問の活動を行っている。	吉野川市グループホーム連絡協議会を通じ交流、また、実践者研修で相互訪問の活動を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状態を家族、ソーシャルワーカーから情報を聞きある程度状態を把握している。本人にも安心して頂けるようゆっくと傾聴したり、見守り少しでも不安が和らげるよう努めている。	入居前の状態を家族、ソーシャルワーカーから情報を聞きある程度状態を把握している。本人にも安心して頂けるようゆっくと傾聴したり、見守り少しでも不安が和らげるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の方に事業所に来て頂き、ホームの案内や説明等し、家族にどのような生活をして欲しいか等の要望や不安等のを聞き取りをし良き関係作りに努めている。	入居前に家族の方に事業所に来て頂き、ホームの案内や説明等し、家族にどのような生活をして欲しいか等の要望や不安等のを聞き取りをし良き関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に要望等の聞き、確認しながら必要であるサービスを提供できるよう努めている。	本人、家族の意向や要望を聞き、何が必要か把握しサービス利用できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な食事のお手伝い・洗濯物たたみ・植木の水やり等できることを積極的に声掛けし一緒にいきコミュニケーションを図っている。	洗濯物の整理等できることを一緒に行い、できるだけ本人と接する機会を多く持つよう気を付けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや敬老会等の行事に参加して頂き、家族との交流を図り、一緒に過ごす機会を設けている。	夏祭りや敬老会等の行事の声掛けをし、参加して頂き、一緒に過ごす機会を持っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出希望があれば、できるだけ希望に沿うようにしている。また、希望があれば、家族や知人への手紙や電話の取次ぎも行っている。	家族や知人の面会は、本人の意向を大切に行っている。また、外出希望があれば、できるだけ希望に沿うように努めて、希望があれば、電話の取次ぎも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛けあいながら、楽しめるレクリエーションの支援をしている。	一部の利用者は性格の違いから、些細な事でトラブルになることが多い。職員が仲裁に入っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたりし退居しても、顔を見に行ったり、声掛けをしたりしている。また、必要に応じて本人・家族の相談にも応じている。	入院されたりし退居しても、顔を見に行ったり、声掛けをしたりしている。また、必要に応じて本人・家族の相談にも応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方や思いを聞き、把握に努め前向きに検討し可能な限り実施している。また、困難な場合には、家族に聞き取りを行ったりしている。	一人ひとりの暮らし方や思いを聞き、把握に努め前向きに検討し可能な限り実施している。また、困難な場合には、家族に聞き取りを行ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りを行ったり、生活されていた施設のサマリー等を見たりして、生活歴等の把握に努めている。	本人、家族に聞き取りを行ったり、生活されていた施設のサマリー等を見たりして、生活歴等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、できる事、できない事を見極め、現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、できる事、できない事を見極め、現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望を第一にアセスメントやカンファレンスを行い、可能な限り実現に向けたケアプランの作成に努めている。	本人や家族の意向や要望を第一にアセスメントやカンファレンスを行い、可能な限り実現に向けたケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活の様子や変化、気づきを記入し介護計画に活かしている。また、申し送りノートがあり情報共有している。	個別記録に日々の生活の様子や変化、気づきを記入し介護計画に活かしている。また、申し送りノートがあり情報共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を聞き、できるだけ要望に沿えるよう柔軟な支援を心掛けている。	本人や家族からの要望を聞き、できるだけ要望に沿えるよう柔軟な支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得て、行事を行ったり、消防に避難訓練の指導をして頂いている。また、近所の美容院を利用し散髪を行っている。	地域の方の協力を得て、行事を行ったり、消防に避難訓練の指導をして頂いている。また、近所の美容院を利用し散髪を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を受けている。急変時や体調不良時にはその都度外来受診している。また本人及び家族が希望される医療機関に受診できるようにしている。皮膚科・歯科は希望時に往診して頂いている。	定期的に往診を受けている。急変時や体調不良時にはその都度外来受診している。また本人及び家族が希望される医療機関に受診できるようにしている。皮膚科・歯科は希望時に往診して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日訪問看護と連携を図り、個々の健康状態や異常等を報告や相談し、適切な指示を頂いている。	毎日訪問看護と連携を図り、個々の健康状態や異常等を報告や相談し、適切な指示を頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時においてその人の状態を詳細に説明し病気以外の事等も話、情報交換、共有に努めている。	入退院時においてその人の状態を詳細に説明し病気以外の事等も話、情報交換、共有に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面において確認し家族と話し合い、方針を共有している。また、必要な時に家族と話し合いを行っている。	入居時に書面において確認し家族と話し合い、方針を共有している。また、必要な時に家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時の連絡等のマニュアルはある。定期的には訓練は出来ていない。積極的に勉強会や講習会に参加し習得できるように努めていく。	急変時や事故時の連絡等のマニュアルはある。定期的には訓練は出来ていない。積極的に勉強会や講習会に参加し習得できるように努めていく。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の事業所と連携し、避難訓練を行っている。また、災害に備えて食料や飲料水の備蓄を行っている。	併設の事業所と連携し、避難訓練を行っている。また、災害に備えて食料や飲料水の備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り、トイレ誘導等の声掛けや個人情報等の話等、気を付けている。居室の名札や行事の写真、ホール便りの写真の掲載についても書面にて了解をいただいている。	居室の出入り、トイレ誘導等の声掛けや個人情報等の話等、気を付けている。居室の名札や行事の写真、ホール便りの写真の掲載についても書面にて了解をいただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望が表わせたり、自己決定できるよう支援している。	できるだけ本人の思いや希望が叶うよう支援しているが、まだまだ不十分であり、不満等あると思います。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個々の希望に沿って、日々の生活が送れるよう支援している。	利用者主体で生活できるように配慮しているが、職員の都合や行事、スケジュール等決めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服が汚れていたら声掛けし、更衣して頂いたり、入浴の時の着替えを選んで頂いたりしている。	家族様が衣類を持って来て下さったり、また、本人様の好みを聞き衣類や化粧品を買いに行っている。時々職員が付き添い買物に出掛けている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の時には誕生者の好物を聞き、料理を作っている。また、希望があれば外食等にも出掛けている。	誕生会の時には誕生者の好物を作っている。また、外食等にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量・水分量をチェックしている。嚥下機能が低下している方に対しては、水分にとろみを付けたり、食べにくいものは刻んだりし食べやすくしている。	毎日食事量・水分量をチェックしている。栄養や水分が足りない時には、好みの物を準備し食べたり、飲んだりして頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて管理されている方もおられる。できない方はその都度対応している。義歯の管理ができない方は夜間の紛失や破損防止の為、夕食後、義歯を預かり洗浄している。	一部の義歯の方には職員が洗浄し、食事時に渡している。また、口腔ケアの声掛け・見守り・一部介助にて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めトイレ誘導を行い、排泄の失敗、パットの使用を減らしている。排泄の訴えや誘導を拒否される時はその都度柔軟に対応している。	日中は定時のトイレの声掛けや誘導をしている。汚染時プライバシーに配慮し、優しく声掛けし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、飲み物、運動、服薬等で個々に合わせた声掛け・対応をしている。	排便の有無を毎日確認し、医師や訪問看護師の指示にて薬や運動等、個々に応じた予防をしている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせてながら、バイタル等に異常がない時、入浴して頂いている。	ふらつきや浴室まで歩いていくのが不安のある方にはシャワーチェアを使用し不安や恐怖心をできるだけ与えないように入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、いつでも休息できるようにしている。夜間不眠にならないよう日中はできるだけ離床して頂いている。	昼夜逆転しないように日中できるだけ起きていられるように支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を個別のファイルに整理し、作用や副作用を把握できるようにしている。誤薬や飲み忘れ、時間を間違えないように薬包に日付や色分けをし個別に管理し、服用前にも名前を確認し服用して頂いている。	処方されている薬の説明書を個別のファイルに整理し、作用や副作用を把握できるようにしている。誤薬や飲み忘れ、時間を間違えないように薬包に日付や色分けをし個別に管理し、服用前にも名前を確認し服用して頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お膳拭き、花の水やり等積極的に声掛けし一緒に行っている。また、日曜日好きな方が集まりカラオケを実施したり、野菜作りが好きな方には野菜が作れるように小さな家庭菜園を作っている。	洗濯物たたみ等できることを積極的に声掛けし一緒に行えるようにしている。また、日曜日カラオケが好きな方が集まりカラオケを実施している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、事業所周辺の散歩や近所のドラッグストアやコンビニに買物に出掛けている。一人ひとりが行きたい場所へ出掛けられるように希望を聞き出掛けている。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩や近所のドラッグストアやコンビニに買物に出掛けている。一人ひとりが行きたい場所へ出掛けられるように希望を聞き出掛けている。家族の協力を得て、毎週外出されている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	3F 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品等を購入する為、家族よりお金を預かり管理している。また、何にいくら使ったか家族に報告しサインを頂いている。自己にて管理できる方は本人が管理し、買物や外食に行った時に自己にて支払できるように支援している	日用品等を購入する為、家族よりお金を預かり管理している。また、何にいくら使ったか家族に報告しサインを頂いている。自己にて管理できる方は本人が管理し、買物や外食に行った時に自己にて支払できるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は、自由に電話を掛けて頂いたり、取り次いだりしている。	本人自ら電話を掛ける事は少ないが、希望時に電話したり、取り次いだりしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や掲示物を通じて、季節を感じて頂けるよう工夫している。	玄関周りに季節の花等を植えたりしている。また、廊下や食堂の壁面に季節感を感じて頂けるように掲示物を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を考慮し過ごしやすように工夫している。	廊下にソファや玄関に椅子を設置し気軽に座り話等できるようにしている。食堂の席もなるべく気の合う方同士座れるように配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々が使いやすいようにベッド、ベッド柵、床頭台を配置している。馴染みの物や好みの物を持って来て頂けるよう本人、家族に声掛けをしている。	本人の好みや馴染みの物等を生かし生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分らない利用者には目印になるような物を掲示したり、設置したりしている。移動の障害になる物等をなるべく除去し、バリアフリーに努め転倒防止に努めている。	障害物等をなるべく除去し、バリアフリーに努めている。トイレや居室が分らない方には目印になるような物を設置したりしている。	